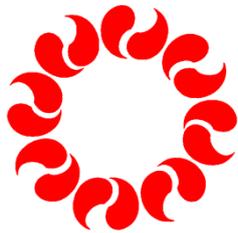


# 彩の国21世紀郷土かるた 【競技必携】



**まが玉は  
過去と未来の  
首がさり**

もくじ

かるたの話・札は46枚	… P.1
競技の種類	… P.2
団体戦と個人戦・競技コート	
競技の役員	… P.3
審判員・審判長・読み手・記録係	
競技の進め方	… P.4
確認・挨拶・札を切る・札を並べる	
競技開始・競技・双方同時・おてつき	
審判のジャッジ	
審判の心得・選手の心得	… P.11

## かるたの話

「さいたま郷土かるた」は、昭和57年(1982年)12月、県下百万人に近い小・中学生の協力により誕生しました。この「かるた」には、埼玉の歴史や人物、雄大な山や川、各地の産業産物などが札に詠まれています。[き]札には「キューポラの並ぶ川口 鑄物まち」と、川口のキューポラが詠まれておりました。

「かるた」には、子ども達が楽しく遊びながら、郷土埼玉のことをよく知り、郷土を愛し、郷土埼玉のために力を出し合える県民に育ててほしいという願いが込められています。

平成14年(2002年)、新たに「彩の国21世紀郷土かるた」に内容が一新されましたが、その願いは変わらず、21世紀に羽ばたく子ども達に、ますます郷土埼玉のことを知ってもらい、郷土を愛し友達とのふれあいを大いに深めて欲しいとの思いが込められています。川口で新たに詠まれたのは「ベーゴマは鑄物のふるさと川口産」の[へ]札になりました。

埼玉子連では、この「かるた」普及のため毎年3月、県大会を開催しています。平成19年の大会からは「彩の国21世紀郷土かるた」を使用し、県内の市町村から120チーム約600名の代表選手が熱戦を繰り広げます。

川口市子連でも毎年2月に、県大会への出場権をかけた川口市大会を開催しています。昭和60年の第3回県大会から選手を派遣し、第5回県大会で団体戦5位、個人戦準優勝と、初めて入賞しその後は個人戦で優勝、準優勝のワンツーフィニッシュや、団体戦では2連覇という快挙をなしとげるなど、数多くの上位入賞を果たしています。

大会では勝敗を競いますが、普段の子ども達への指導は、勝敗にこだわらず、ルールを守り礼儀正しく仲良く学び、かるたの楽しさを教えてください。

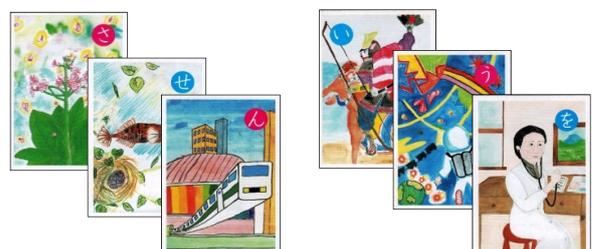
## 札は 46枚

「彩の国21世紀郷土かるた」の札は、[あ]から[ん]まで 46枚あり、次の様に区分されます。

- ①から札 … 1枚 [ま]  
 (ま札) 競技開始を告げるとき、最後の2枚の終了処理のとき、と二度読まれ、この時は札を取ることができません。空読みの札で「から札」といいます。もう一つ「ま札」として、同点時、勝敗を決める札となります。[ま札勝ち]



- ②やく札 … 6枚 [さ・せ・ん] [い・う・を]  
 団体戦において、それぞれ3枚揃うと、1組について10点加点されます。また、個人戦には「やく札」はありませんので、一般札と同じ扱いになります。



- ③一般札 … 39枚 上記以外の札。

# 競技の種類

## 団体戦と個人戦

「彩の国21世紀郷土かるた」の競技の種類には、団体戦と個人戦があります。

### (1)団体戦

4人1組で編成します。(性別は問いません)

※性別不問=令和元年度ルール改正

- ・ 競技は3人1組で対戦し、残りの1人は交代要員となります。
- ・ 選手の交代

- ① 試合開始前の交代は、登録されている4人の内から3人自由にできます。
- ② 試合開始後の交代は、原則としてできません。

試合途中において、選手が怪我等により続行不可能と担当審判又は競技責任者(審判長等)が判断した時は、選手の意志に関わらず交代となります。

### (2)個人戦

1人对1人で対戦します。(性別は問いません)

- ・ 個人戦では交代要員は認められていません。

従って、試合途中で、怪我等により続行不可能と担当審判又は競技責任者(審判長等)が判断した時は、相手チームに勝ちが与えられます。

この場合、記録としては「棄権」として処理されます。

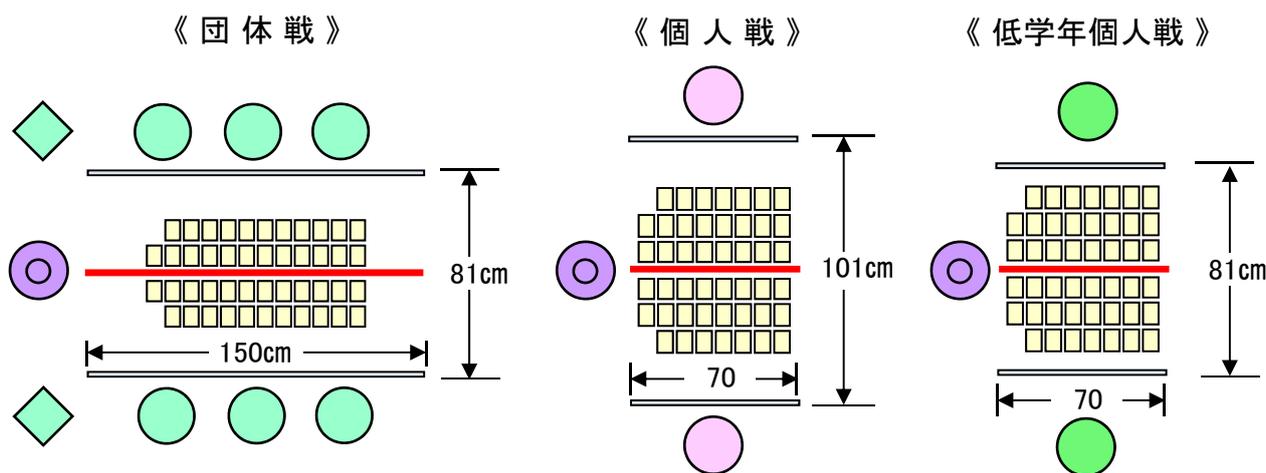
### (3)低学年個人戦

県大会の種目にはありませんが、川口市大会には「低学年個人戦」があります。

出場資格は1年生～3年生、使用コートは相手との対戦幅が81cmとなります。

それ以外は「個人戦」と同じ競技方法です。

## 競技のコート



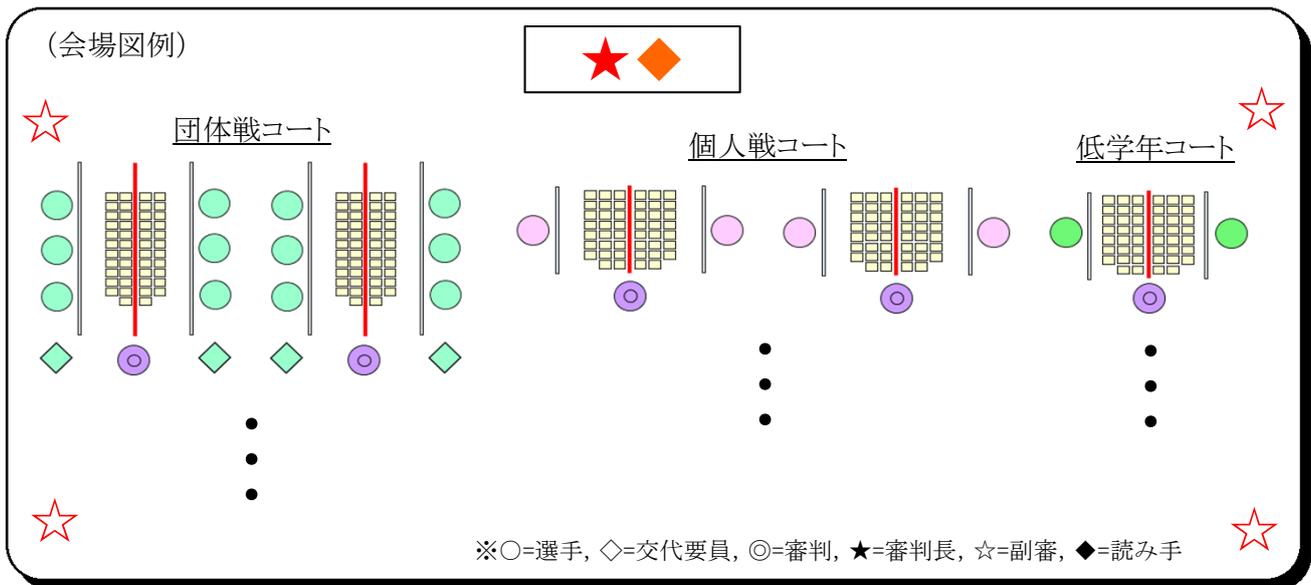
- ・ 各陣の幅は 団体戦150cm(かるた並べ幅は、約90cm)  
個人戦 70cm( " 約60cm)
- ・ 相手チームとの間は、  
団体戦 81cm(中央線の中心より 40.5cm)  
個人戦101cm( " 50.5cm)

◎=審判  
○=選手  
◇=交代要員

※ 自陣の一番手前の札からヒザまでが約20cmになるように考えられています。

81cm, 101cmはテープ幅を含みます。(テープの外側からの距離)

# 競技の役員



## ◎ 審判員

審判員は、対戦1組を担当し、その競技の判定を責任を持って処理します。

- ・競技上の問題点や、進行を妨げることが起きた時、旗を上げ「タイム」を取ります。
- ・試合結果を記録用紙に記入し、選手に確認の上、記録係に用紙を渡します。
- ・県大会、川口市大会では、審判員はイスに座りジャッジします。

## ★ 審判長 ☆ 副審 (進行係として、大会の運営を把握し、進行を敏速に行うよう努めます)

審判長は、競技全般における全責任を負います。

- ・担当審判が判断しかねた事項の最終判断を行います。

副審は、審判長の補佐をします。

- ・各審判からの「タイム」の合図により、「試合中断」を読み手に伝えます。

## ◆ 読み手

読み手は、読み札をハッキリとした声で読み、選手が取りやすいように配慮します。

- ・読み方は、第1節の最後の文字と、最終節の最後の文字を伸ばして、ゆっくりと読みます。また、1度の読みで2回繰り返して読みます。読み始めたら途中で止めてはなりません。

(例) まが玉は～ 過去と未来の 首かざり～ まが玉は～ 過去と未来の 首かざり～

- ・試合ごとに、読み札を良く切っておきます。

「やく札(さ・せ・ん, い・う・を)」や「ま札」が、最後の2枚に残らないように配慮します。

(できるだけ最後から5～6枚目前には読み終わるように工夫します)

## △ 記録係

記録係は、試合結果を敏速に把握し、正しく記録します。

- ・試合ごとに、各審判から記録用紙を、内容を確認の上、回収します。
- ・試合結果を集計し、記録表に記入します。

# 競技の進め方



... 担当審判は、取り札(絵札)が46枚あるか確認し札をよく切っておきます。



只今より 審判長  
第〇試合を始めます  
一同礼！  
審判は、札を中央に置いてください



... 担当審判は、札を中央に置き、  
①ジャンケン ②札を切る ③札を分ける  
を双方の選手に指示します。



札を並べてください 審判長  
計時(3分間)スタート  
選手は速やかに札を並べ、記憶に入る。



... 計時(3分間)終了後、審判長は試合開始を読み手に告げます。



まが玉は～過去と未来の首かざり～ 読み手  
まが玉は～過去と未来の首かざり～

札を取る	双方同時	おてつき	タイム
------	------	------	-----



... 札が最後の2枚になった時、担当審判は、選手に競技終了を指示をします。

まが玉は～過去と未来の首かざり～ 読み手  
まが玉は～過去と未来の首かざり～



... 担当審判は、結果を記録用紙に記入し、選手から確認サインを貰います。  
以上で第〇試合を終了します。 審判長

## あ 確認

・取り札(絵札)の枚数確認 ・選手の確認

### (1) 取り札の枚数確認

- ①担当審判は、競技開始前に取り札の枚数(46枚)を確認します。異常があれば進行係に告げます。
- ②枚数確認後、札をよく切ります。
- ③進行係の合図で、ウラにして対戦コートの真ん中(中央線上)に置きます。[図①]

### (2) 選手の確認

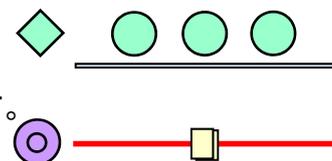
#### ①選手的位置

担当審判は、対戦チームを所定の位置に座らせ、選手の確認をします。

- ・記録用紙の上段に記載のチームは、審判の右手側、下段は左手側に。
- ・団体戦の交代要員は、審判員の横に自陣チームの方を向き正座します。

交代要員は競技中、かるたに触れることはできません。

[図①] 取り札の確認

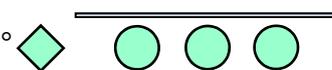


#### ②選手の姿勢

選手は、所定の位置に、ヒザを20cm程度開き、靴等を脱ぎ、正座します。

- ・前傾姿勢は45度以上傾かないようにします。
- ・手は、かるたを取る時以外は、ヒザの上に置きヒジは曲げないようにします。
- ・ライン上に、手、ヒザ、ヒジがかかってははいけません。

・怪我等で正座ができない場合は、事前に審判長に申告し許可を得ておきます。



## い 挨拶

よろしくお願ひいたします

進行係の合図により、対戦の挨拶と、礼をします。

## う 札を切る

・ジャンケン ・札を切る ・札を分ける

### (1) ジャンケン

対戦する選手(団体戦は中央の選手)同士でジャンケンをします。

これにより[取り札を切る]役目を決めます。

### (2) 札を切る

ジャンケンに勝った選手は、取り札をウラにしたまま何回か切ります。

切り終わったら、ウラのまま23枚ずつ2山に分け、中央に置きます。[図②]

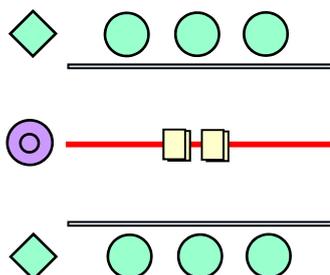
### (3) 札を分ける

ジャンケンに負けた選手が先に2つの山のどちらか一方を取り、ウラのまま自分のヒザの前に置きます。

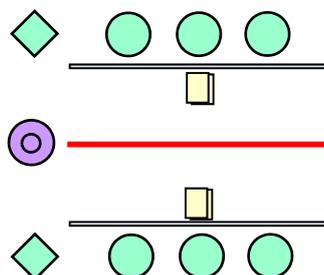
残りの山を、勝った選手が取り、同様に自分のヒザの前に置きます。[図③]

まだ、並べ始めてはいけません。

[図②] 札を切る



[図③] 札を分ける



## え 札を並べる

・並ぶときは敏速に ・札の順番は変えられない

進行系の合図で、自陣内に、[並べ方]に従って、取り札を並べます。

団体戦の場合は、中央の選手が1人で行います。両サイドの選手は手伝ってはいけません。

### (1)並べ方

①分けられた23枚の札をオモテにし、手に持ちます。

②自陣内に、審判側から1枚ずつ、上、中、下段の順で速やかに並べます。

この時、札の順番を絶対に変えてはいけません。

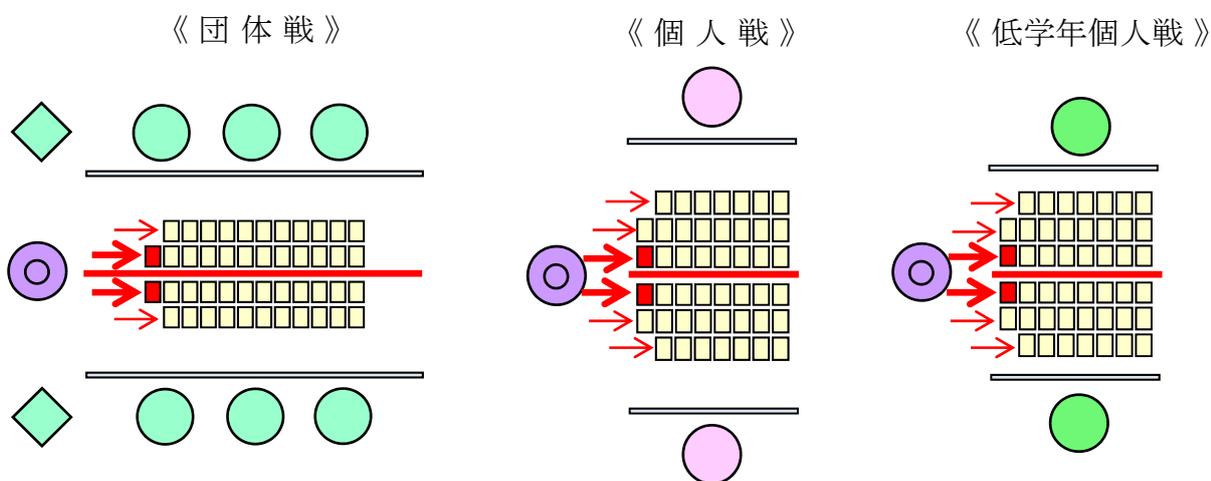
・団体戦 上段＝12枚、下段＝11枚

※上段は中央線側、下段は手前。

・個人戦 上段＝8枚、中段＝8枚、下段＝7枚

③並べ終わったら、札の位置の記憶を行います。

④この一連の動作は、話などせずに静かに行います。審判員は、選手が敏速に並べるように指示し、審判自身も記憶を行います。又、選手の姿勢なども正します。



- ・上図 ■ の札より並べ始めます。(審判は、この位置を指し示します)
- ・下段(一番手前)は、審判側を1枚空けて並べます。
- ・札と札の間隔は、上下左右とも1cm程(指1本程度)離します。
- ・中央の相手チームとの間隔は3cm程離します。(中央線の縁に付けて並べます。)

### (2)並べ方の注意

#### 並ぶときは、敏速に

並ぶときは、敏速に並べます。記憶は、並べ終わってからにします。

並べながら記憶することなどはやらないように、審判も選手を指導します。

#### 札の順番は変えられません

並べ始めから終わりまで、札の順番を変えることはできません。

但し、「自陣の札」について、文字が自分の方から正しく読めるように、札の向きを変えることはできます。

#### 位置の変更も出来ません

試合開始後も、札の位置の変更はできません。

取って空いた所へ別の札を移動することなどの、位置の変更はできません。

但し、最後の2枚になったときは別に定めます。(「競技終了」の項参照)

#### 札が余ったときは

並べ終わり、札が余ったとき(2山に分けたとき23枚ずつになっていなかった)は、相手チームの最後へ、その余った札を置きます。

## お 競技開始

札の並べ始めから3分間で競技開始となります

### (1)記憶時間

進行係は、並べ始めから3～5分間計時し、読み手に試合開始を指示します。

※川口市大会では、3分間とします。

### (2)札の読み方

読み手は、はっきり、ゆっくり、どの札も「2回」読みます。

読み方は、第1節の最後の文字と最終節の最後の文字を伸ばして読みます。

※下記「まが玉は～ …」の「～」の部分伸ばして読みます。

#### ①最初に「から札」を2回読みます。

まが玉は～ 過去と未来の首かざり～  
まが玉は～ 過去と未来の首かざり～

この最初の「から札」は「試合開始」の意味で、選手はこの札を取ることはできません。

万一、誤って取り札に触れても「おてつき」にはなりません。

#### ②「から札読み」の次に読まれた札から、選手は札を取ることができます。

## か 競技

先に札に触れた選手のもの

### 札を取る

①読まれた札を取る時は、必ず片手で行います。残りの手は、遠いところの札を取る時に体を支えるための「かばい手」以外は、ヒザの上に置いておきます。

②取り方は、「押さえる」「はじく」「押す」「引く」など自由ですが、とにかく先に札に触れた選手のもの。但し、故意に飛ばしてはなりません。

又、双方の選手が同時に札に触れた場合は「双方同時」の判定となります。

③今、読まれている札以外の札に触れた場合は「おてつき」となります。

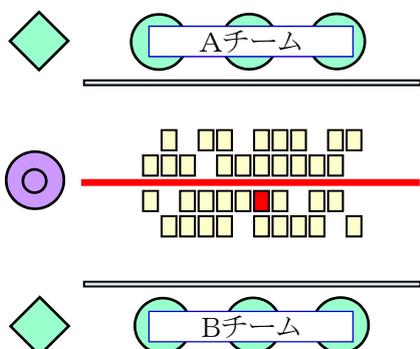
④両手で札を取ることは出来ません。両手とは上記①を無視し両手を同時に使用することをいいます。



下の手の選手のもの

### 双方同時

今読まれている札に、両チームの選手が同時に触れ、手が重なってなく、判定が困難な場合は双方同時とし、次のように処置します。



①その札が「一般札」及び「から札」の場合、陣内にあるチームが取ります。

又、最後の2枚の時の「陣内」の判定は、

札の向きにより処理します。（「競技終了」の項参照）

②団体戦の場合、その札が「やく札」の時は、「審判預かり」となります。「審判預かり」となった札は、

競技終了まで審判が預かり、どちらの得点にもなりません。

【注意】「双方同時」のルールがあるからといって、何でもかんでも、双方同時にせず、先に札に触れた選手を、しっかりと判断してください。



双方同時

※上図の赤の札が双方同時の場合

①「一般札」、「から札」は … Bチームへ

②「やく札」のとき・個人戦 … Bチームへ

・団体戦 … 審判預かり

※「から札(ま札)」は「やく札」ではありません。やく札と混同するように注意しましょう。

※「双方同時」による審判預かりは、団体戦の「やく札」6枚だけです。

## おてつき

今、読まれている札以外の札に、選手のだれかが手を触れた場合「おてつき」となります。

①「おてつき」をしたチームは、自分達が取った札の中から**1枚、相手チームへ渡します。**

この場合、チームの何人もが「おてつき」しても、渡すのは1枚となります。

②「おてつき」をしても、続いての動作で、正しい札を取ることができます。

但し、最後の2枚のときは、この取り方はできません。

③次の場合、「おてつき」をしても相手チームに札を渡す必要はありません。

a) 味方のチームに、取った札が1枚も無いとき。

取った札が1枚も無いとき「おてつき」をしても、その回数が記録され、後から精算されることはありません。

但し、上記②の「おてつき」直後に「正しい札」を取った場合は、その札を相手に渡します。

b) 双方のチームが、それぞれ「おてつき」をした場合。

双方のチームが別々の札を「おてつき」した場合、人数の多い少ないに関係なく痛み分けとなります。

また、同じ札を双方が「おてつき」をした場合は、手の重なりや、正しい札の時のような「双方同時」の時間差的なものに関係なく、双方とも「おてつき」となり、これも痛み分けです。

c) 「から札(ま札)」が、「から札」として読まれたとき。(競技開始と終了時)

## 審判のジャッジ

①審判は、**迅速で公平**なジャッジをしなければなりません。

・札に先にふれた選手 … 手が重なっている場合は、下側の手の選手が先に触たと判断します。

・おてつき

・双方同時と審判預かり

・ジャッジするときは、必ず、そのチーム側を、手で指し示します。

②**タイム**と**タイム解除**

審判は次のような事項のとき「タイム」と「タイム解除」を、旗を使って進行係に合図します。

・タイムと取る … 旗を上げる。(問題が解決し解除するまで上げています)

・タイムを解除する… 旗を下げます。

a) 選手が札を取りきれないとき

札の読みは2回繰り返して読まれます。この間に、誰も札を取れてないときに「タイム」を取ります。

→ その後札が取れたら、「タイムを解除」します。

b) 次の札の読みを停止したいとき

おてつき等の札のやり取りや、札の乱れを直すなど、進行を止めたいときに「タイム」を取ります。

→ 状況が改善されたら、「タイムを解除」します。

## 競技の中断と再開

「タイム」は、担当審判～副審～進行係(主審)～読み手の連携で、敏速に対処します。

①副審の役割

副審は原則として競技会場の四隅に立ち、審判からの合図(タイム, タイム解除)を受け、進行係に旗で合図します。

・タイム … 審判の旗が上がった時、副審も旗を上げ、タイムを告げます。解除まで上げ続けます。

・タイム解除 … 審判の旗が下がったら、副審も旗を下げ、タイムの解除を告げます。

②進行係(主審)の役割

進行係は、副審の旗に注意し、その対処指示を「読み手」に伝えます。

・タイム … 副審の旗が上がったら、読み手に「読みの停止」を告げます。

・タイム解除 … 副審の旗が下がったら、読み手に「再開(次の札の読み)」を告げます。

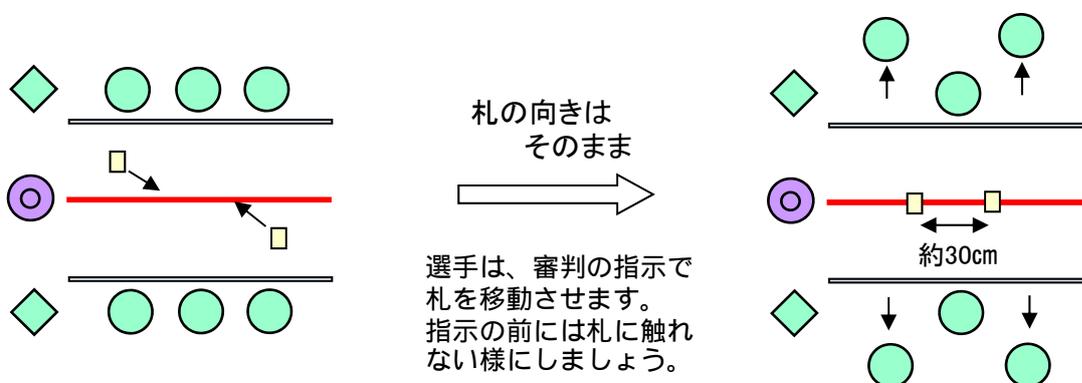
③読み手は、進行係から「読みの停止」の合図があったら、今読んでいる札の読みを、2回、最後まで読み続け、次の札の読みのを中止します。そして、「再開」の合図により、次の札の読みを始めます。

## き 競技終了

### 取り札が最後の2枚になった時の処理

#### (1) 競技終了手順

- ① 審判員はどちらの陣の札が残っても、2枚の札を、中央に「30cm程」離して置くように指示します。  
この時、札の向きを変えずに、そのまま移動させます。  
この札の向きが、「双方同時」の時の「自陣」の判定基準になります。絶対に変えないよう注意します。
- ② 団体戦の場合には、中央の選手が代表となり、残り2枚の札を競います。  
他の選手は、後ろに下がります。札に触れることはできません。
- ③ 審判長は、残っている2枚の札の文字を告げ、審判員はそれを確認します。  
そして、全コートでの準備が出来たことを確認したら、読み手に最後の読みを指示します。
- ④ 読み手は、まず「から札」を2回読み、続いて次の札を読みます。
- ⑤ この読まれた札が、取り札となります。  
この札を取った選手に、残りの1枚が与えられ、競技が終了となり勝敗の判定をします。



#### (2) 競技終了時の注意

- ① **おてつき**  
最後の2枚の時も、読まれた札以外の札に触れると「おてつき」になります。  
場の2枚を取る権利を失い、手持ちの札から1枚を相手に渡します。  
又、団体戦で中央の選手以外が札に触れた場合も「おてつき」になります。
- ② **おてつき後の取り直しはできません**  
最後の2枚になる前は、おてつき後の「取り直し」は可能でしたが、最後の2枚では「取り直し」はできません。  
また、読まれた正しい札に先に触れ、次に正しくない札に触れた場合も「おてつき」です。  
これは、「やみくもな2枚狙い」を防ぐためのものです。
- ③ **双方おてつき**  
最後の2枚の時「双方ともおてつき」をした場合は、団体戦、個人戦の別なく、2枚とも「審判預かり」となり、競技が終了となります。
- ④ **フライングはおてつき**  
から札が読まれている時、札に触れても「おてつき」にはなりません。から札が読み終わり、次の札が読まれる前に、札に触れると「おてつき」です。注意しましょう。
- ⑤ **双方同時は札の向きで**  
読まれた札に「双方同時」で手が重なっていなければ、その[札の向き]により判定します。  
団体戦の場合、その札が「やく札」の時は「審判預かり」となります。  
残った1枚は、[札の向き]により判断し、権利のあるチームのものとしします。  
但し、「やく札」を最後の2枚に残さないように、読み手が工夫するので、通常はおこりません。
- ⑥ **2枚以上残っていた**  
何らかのミスで2枚以上残っていた場合は、正しい札以外は、札の向きで権利のあるチームを判断します。  
但し、団体戦において、その札が「やく札」の場合は、特例の「審判預かり」とします。

⑦違う札が残っていた

これは、競技途中での取り間違いに、審判も選手も、誰も気づかずに進められてきた不注意の結果です。次の様に処理をします。

1. 双方のチームの取った札の中に、残っているはずの札を探させます。
2. 見つかった札をコート中央線に出し、最後の対戦用の札に戻します。
3. 相手チームへ1枚渡します。
4. 残っている間違った札は、その向きにより、権利のあるチームのものとしします。  
団体戦において、その札が「やく札」の場合は、特例の「審判預かり」とします。  
但し、このようなことは、あってはならないことです。審判員は注意しましょう。

🔴 勝敗の決定

「ま札」は1点。同点時のみ勝敗を決定する札

(1)得点 どの札も1点 「やく札」は？  
取り札は、46枚どの札も1枚1点として数えます。但し、団体戦の場合は「やく札」による加点があります。

(2)「やく札」の種類と得点 「やく札」は団体戦のみ 正しく揃えて10点

①種類

◇シンボル札

- さ： サクラソウ かれんに優しく 県の花
- せ： 清流に 生き長らえよ ムサントミヨ
- ん： シンボルは さいたまアリーナ 新都心

◇三人札

- い： いざ出陣 太平めざし 直実公
- う： 宇宙まで 夢をとどけた 若田光一
- を： 女医一号 未来を開いた 荻野吟子

②得点

一般札と同じに1枚1点と数える他に、上記の[シンボル札], [三人札]それぞれ正しく3枚揃った場合、10点加点されます。(さ・せ・ん=10点、い・う・を=10点)  
従って、2組の札が混じっての3枚は加点されません。

(3)「から札(ま札)」の得点 得点は1点。でも、同点の時は決勝札！

ま： まが玉は 過去と未来の 首かざり

団体戦、個人戦の別なく「から札(ま札)」の得点も一般札と同じ1枚1点です。

但し、両チームの合計得点が同点の場合、この「ま札」を持っているチームが勝ちとなります。(ま札勝ち)

【注意】 同点以外は単に一般札と同じ1点ですので、「やく札」と混同しないようにしましょう。

特に「双方同時」の時、「やく札」のように「審判預かり」などにしないように注意してください。

彩の国21世紀郷土かるた大会・記録カード						
団体戦		コート： A1	試合： 第 2 試合	組 (人力順)： 1		
No.	対戦チーム名	取った枚数	やく札 シンボル札 よん	三人札 い・う・を	合計点 ま札	判定 ○×
1	中央A (確認サイン)	17	×	×	27	×
2	青木A (確認サイン)	28	×	×	28	○
特例 審判預かり枚数		2	特例預かり札、理由			
やく札 審判預かり枚数 (最大6枚)		1	審判氏名 櫻 百合子			
合計枚数 (46枚)		46	( なかよし子ども会 )			

記録カードの記入方法

- ①取った枚数の申告を受け、記入します
- ②審判預かり数を記入します
- ③合計枚数(①+②)を記入します  
枚数が46にならない時は、①を審判が数え直します
- ④やく札を審判が確認し、記入します
- ⑤合計得点(①+④)を記入します
- ⑥ま札を審判が確認し、記入します
- ⑦判定の○×を記入します  
得点(⑤)が多いチームが勝ち  
同点は⑥ま札があるチームが勝ち
- ⑧選手から確認サインを貰います  
必ず○×を見せて確認させます

※最後の2枚のときの「双方おてつき」は、一般札、やく札の別なく「審判預かり」となります。

川口市子ども会連絡協議会  
TJN彩の国21世紀郷土かるた研究会

## 審判の心得

審判員は、常に公平に判断してください。万一、判断に苦慮した時は、速やかに旗を挙げ「タイム」を取り、進行係と連絡を密にし迅速に問題を解決し、試合がスムーズに進行するよう心がけます。

### 選手の確認

各試合毎に選手の確認を行います。

### 札の順番を変えさせない

取り札は、並べるときに順番を変えたり、並べた後も位置を変えることはできません。

又、試合中に札が飛んだりした場合も、速やかに元の位置に戻さなければなりません。

### 選手の姿勢

札が読まれるまで、前傾姿勢は45度以内、両手はヒザの上に置きます。

コート内のライン上に、ヒザや手やヒジがかかっていないかも確認します。

試合中、選手は熱中してくると姿勢が乱れたり、ラインを越えたりしますので、注意を与えてください。

### 選手の手的位置

札を取る時、両手を同時に使用することは出来ません。片方の手は、ヒザの上に置いておくようにします。

但し、遠い位置の札を取る場合のかばい手はこの限りではありません。

### 札の取り方

今読まれている札に最初に触れた選手を公平にジャッジします。

手が重なった時は、下側の手の選手に権利があります。

### 札が取れていないときのタイム…

読み手が2回目を読み切る寸前になっても取れていない時、速やかに旗を挙げて告げます。

札が取れたら旗を下げ「タイム解除」を告げます。

### その他のタイムは早めに

「おてつき」や「審判預かり」での札のやり取りに手間取る場合など、速やかに「タイム」を取り処理しましょう。

## 選手の心得

### 正々堂々と

ルールをよく守り、常に正々堂々と競技しましょう。又、審判員の判定に抗議することはできません。

但し、審判員が間違ったルール解釈の時は、この限りではありません。

### 取った札は

取った札は、これから取る札に混ざるのを防ぐために、裏返しにして膝元(陣外)に置くようにしましょう。

### コート内の札をむやみに触らない

並べてある札が乱れたからといって、審判員の指示も無いのに、札に触れないようにしましょう。

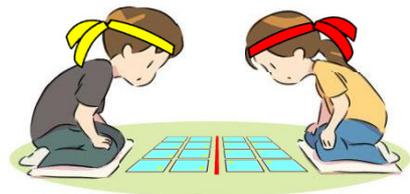
「おてつき」を取られる場合があります。

### 服装は

服装は、袖口が邪魔にならないようなものにしましょう。

### ケガに注意

怪我防止のため、必ず爪は短く切っておきましょう。



川口市子ども会連絡協議会  
TJN彩の国21世紀郷土かるた研究会